

インタビュー

快適・安全・便利な都市づくりの処方箋を探求する“都市計画学”

都市・交通研究室 中村 英夫 教授

Hideo Nakamura | Professor

1963 年生まれ 北海道出身
北海道大学工学部土木工学科卒業

専門 | 都市計画、都市交通計画、都市開発



中村教授は、国土交通省や地方公共団体で長い間にわたり都市計画やまちづくり行政に携わってきた経験をお持ちです。大学での研究も現場の都市計画に役立つものにしたいと意気込む先生に、研究についてお話を伺いました。

Q：ご専門の都市計画では、どのような研究テーマに取り組んでいますか？

A：都市は、私たち人間が住み、学び、働き、遊び、憩う空間です。道路や鉄道といった交通施設、上下水道やガスといったライフライン施設、公園緑地の整備が行われています。また、都市の中には繁華街、オフィス街、住宅街など、様々なエリアがあり、ビルの建設などにより都市は変化し続けています。このように、都市は多くの人びとが、それぞれが行う建築活動や経済活動、インフラ整備の結果としてできあがっています。このような都市を望ましい姿に誘導するための仕組みや、望ましいかそうでないかを判断し、将来を見通すためのデータ収集・解析に取り組んでいます。人口減少や高齢化が進む中、快適で安全安心な都市づくりに役立てたいと願っています。



安全で便利な暮らしを支える都市計画

Q：都市計画のためのデータ収集・解析とはどのようなものか教えてください。

A：都市計画では、データに基づく合理的な根拠が求められます。人口、経済活動などの基礎データは、国が全国的な調査を行いますが、都市内の交通状況などは、それぞれに調査を行いデータを集めています。しかし、自動車の交通量やバスの乗車人数などの数値だけでは、それぞれの移動を合わせた結果に過ぎないため不十分です。人びとが、いつ、どこからどこへ、どんな交通手段で、どのような目的で移動したのかサンプル調査し集計分析することで、交通の実態を詳しく把握し、将来を見通すことができます。これまではアンケート票を用いていましたが、スマートフォンを使って簡単に大量に移動データを取得するという、新しい調査方法の研究も行っています。



調査票（紙）とスマホアプリ

Q：土木工学に関心を持った皆さんへのメッセージをお願いします。

A：土木工学には様々な分野があります。構造物の設計や施工、環境との共生といった理工学分野だけでなく、都市計画のようにそれを実現するための社会システムや政策論まで含む研究分野もあります。いずれも、私たちの暮らしを支え、より良いものにするのを目的とするものです。是非、土木工学科の門を叩いて土木の世界に飛び込んでみて下さい。



人びとでにぎわう街を創造